



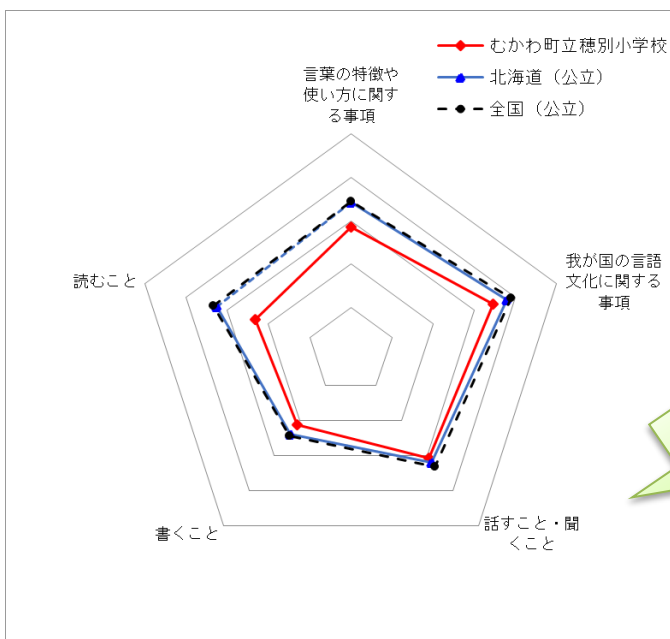
令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について

〔調査の概要〕

4月19日（火）、全国の小学校6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。先日、町全体の結果がむかわ町ホームページに掲載されています。

「教科（国語・算数・理科）」と「質問紙調査」等の結果をもとに、本校の子どもたちの学力や生活の状況について考察をまとめましたので、お知らせいたします。

【国語】 全国平均正答率より「とても低い」結果となりました。



〔成果〕

- 領域別の正答率は、全て全国平均を下回りましたが、「**話すこと・聞くこと**」領域の正答率が**比較的高い結果**となりました。
- 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題では、全国平均を上回っています。

調査問題 2三

〔課題〕

▲特に、「読むこと」や「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域で課題が見られました。

〔最も課題の見られた問題〕

- ▲右の問題は、「銀色の幻想」という物語の一部（約4ページ）を読み、この物語の全体像を具体的に想像して表現の効果を選ぶ問題ですが、全国平均と比べ、約44ポイント低い正答率でした。
- ・物語をよく読み全体像をとらえられれば正解の「2」にたどりつくのですが、「1」と答えた児童が多くいました。これは、色の表現（赤線部）に注目してしまい、物語の全体像と関わらせて考えることができなかつたことが原因として考えられます。

- 色の表現を使い、季節が変わったことを印象づけている。
- 「ぼく」が体験した信じられないような出来事を印象づけている。
- 空と風を表す表現を使い、「ぼく」が宇宙に行った不思議さを印象づけている。
- 「ぼく」が過去から現在にもどってきた安心感を印象づけている。

三 同じ学級の山村さんも、「銀色の幻想」を読み、せいせんする文章を書いています。次の「山村さんの文章」の B の中に入る内容として最も適切なものを、あとの1から4までのの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

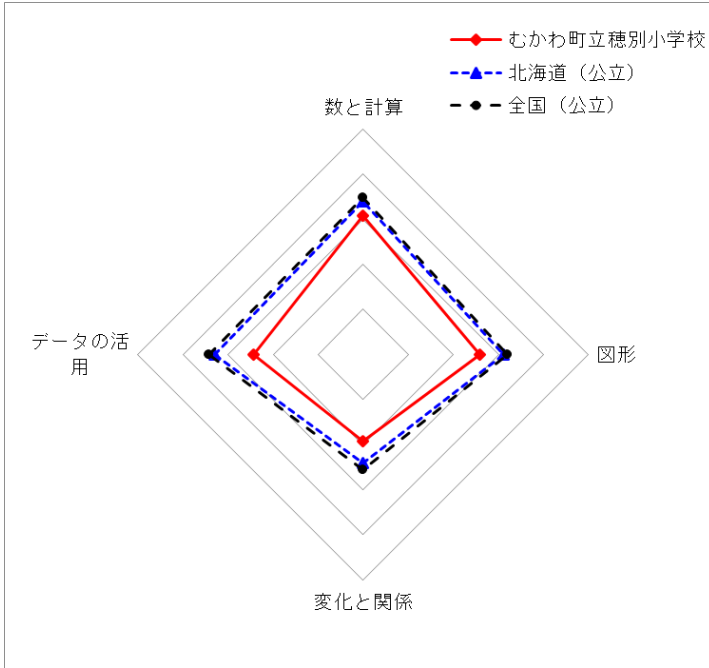
〔山村さんの文章〕

この物語は、主人公の「ぼく」が自分と同じ名前のもけい店で「老人」と出会うことから始まる。「老人」は、未来の「ぼく」のすがたかもしれないのだが、読者にそう思わせる表現が文章全体に散りばめられている。そのため、読み進めるうちに、物語の世界にどんどん引き込まれていく。そして、最後の一文「ただ、透明な空の青さのなかで、ススキの穂波が銀色に光り、風にそよんでいるだけだった。」は、

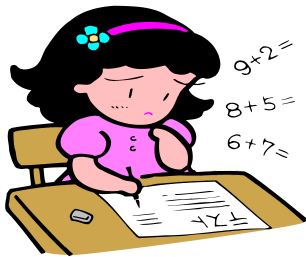
B

読み終わった後も物語の世界にひたることができるとおすすめの作品だ。

【算数】 全国平均正答率より「とても低い」結果となりました。



【成果】
 ○領域別の正答率は、全て全国平均を下回りましたが、「**数と計算**」領域の正答率が比較的高い結果となりました。
 ○特に、「14と21の最小公倍数を求める」「例をもとに、カップケーキ7個分の値段を割り算で求めることができる理由を述べる」など**16問中3問は全国平均を超えており**、問題によっては高い理解を示していることが分かりました。



調査問題 2 (1) (2)

【課題】
 ▲領域別に見ると、「図形」や「データの活用」の正答率が低い結果となりました。
 ▲百分率を使って計算する問題（5年生の学習内容）について、正答率が低い一方で無回答率が高く、苦手意識が見られました。

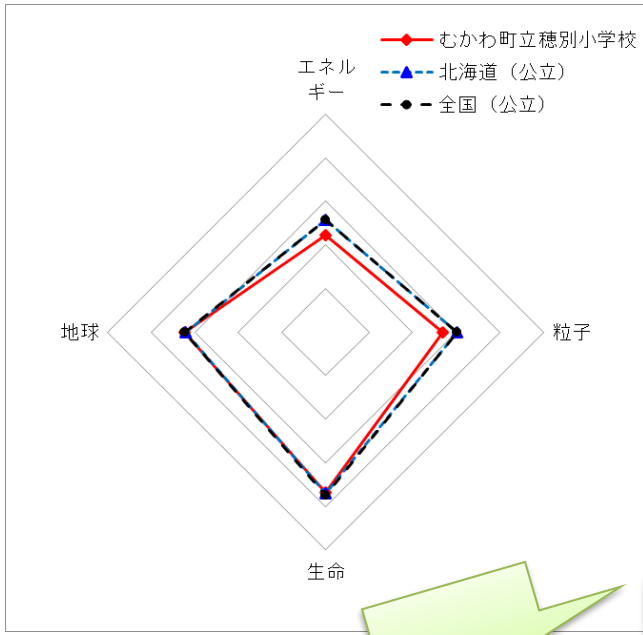
〔特に課題の見られた問題（右）〕
 ▲（1）の問題は、百分率（%）で表された割合を分数で表す問題です。正答率は全国平均より約25ポイント低く、また、本校の4人に1人は無解答でした。
 ▲（2）の問題は、百分率（%）と飲み物の量から、果汁の量を求める問題です。これも、正答率は全国平均より約34ポイント低い結果でした。
 ・これは、**百分率についての基礎**
 ・**基本が定着していないことが原因**と考えられます。

2
 果汁入りの飲み物について考えます。

(1) オレンジの果汁が25%ふくまれている飲み物があります。飲み物の量をもとにしたときの、果汁の量の割合を分数で表しましょう。

(2) オレンジの果汁が40%ふくまれている飲み物があります。この飲み物1000 mLには、果汁が何 mL入っていますか。答えを書きましょう。

【理科】 全国平均正答率より「やや低い」結果となりました。



【成果】

- 領域別の正答率は、「**生命**」及び「**地球**」領域の正答率が全国平均とほぼ同程度の結果となりました。
- 昆虫に関する問題や、水が水蒸気として空気中に含まれていることを問う問題は全国平均を約 10 ポイント上回っており、身の回りの自然現象に関心をもち、学習に生かしている様子**がうかがえました。



調査問題 2 (3)

つくった水よう液で、次のような実験をしました。

【方法】

①水、砂糖水、食塩水をそれぞれ、試験管に同じ量入れる。

②水、砂糖水、食塩水を冷やすための物をつくる。

③冷やすための物に、①を入れて冷やす。ときどき、試験管をとり出し、温度どうようを観察する。

実験の【結果】、水、砂糖水、食塩水の「こおり始めた温度」と「すべてこおった温度」は、下のようになりました。

【結果】	(水、砂糖水、食塩水を冷やした温度)	
	こおり始めた温度	すべてこおった温度
水	0℃	0℃
砂糖水	-1℃	-1℃
食塩水	-6℃	-8℃

(3) はるとさんは、実験したあと、【問題】、【予想】を確認しました。

【問題】
砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低いだろうか。

【予想】 (はるとさんの予想)
砂糖水や食塩水は、こおるのが水の部分だから、水がすべてこおる温度と同じ0℃で、すべてこおると思う。

この【結果】からは、わたしの【予想】がらがっていることがわかったよ。【結果】の(ア)ということから考え直すと、【問題】に対するまとめは、(イ)といえるね。

はるとさん

はるとさんのことばの(ア)の中にあてはまるものを、下の1から4までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

また、(イ)の中にあてはまるものを、下の5から8までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

(ア)

- 1 水は0℃、砂糖水は-1℃、食塩水は-8℃ですべてこおった
- 2 水、砂糖水、食塩水は、冷やすとすべてこおった
- 3 すべてこおるまでの時間は、砂糖水より食塩水が長かった
- 4 水、砂糖水、食塩水は、0℃のときにすべてこおった

(イ)

- 5 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度と同じである
- 6 砂糖水や食塩水がすべてこおる温度は、水がすべてこおる温度より低い
- 7 食塩水がすべてこおる温度は、砂糖水がすべてこおる温度より低い
- 8 食塩水だけが、水がすべてこおる温度より低い温度ですべてこおる

【最も課題の見られた問題】

▲上の、「自分の予想と実験や観察の結果をもとに、問題に対するまとめを検討して、自分の考えをもつ」問題の正答率は、全国平均より約32ポイント低い結果でした。(ア)では多くの児童が正解の「1」を選ぶことができていましたが、(イ)で正解の「6」ではなく、食塩水と砂糖水のこおる温度を比べており【問題】(赤線部)に対するまとめとはいえない「7」を選んだ児童が多くいました。これは、**問題に対する適切なまとめを考えることができなかつたことが原因**として考えられます。

【児童質問紙】 全国平均値と比較した、本校児童の傾向は次のとおりです。

〔生活習慣・学習習慣・規範意識等〕

- 朝食を毎日食べている児童が約93%と、とても多いことが分かりました。
- 学校の授業以外に、平日、1日1時間以上勉強している児童が約86%と、とても多いことが分かりました。
- 全員が、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答しました。
- ▲半数の児童が、平日に4時間以上もゲームをしていることが分かりました。
- ▲家庭での読書時間、家にある本の冊数の項目が全国平均を大きく下回り、昨年に続き、読書習慣の定着に大きな課題が見られました。



〔学習意欲・学習方法〕

- 全員が、「国語・算数・理科の勉強は大切だと思う」と回答しました。
- 昨年度までの授業で、「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」割合が、全国平均を上回りました。
- ▲昨年度までの授業におけるタブレット端末の使用機会が全国平均を大きく下回り、大きな課題が見られました。
- ▲昨年度までの授業で、「学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」割合が全国平均を下回り、課題が見られました。



「教科」及び「児童質問紙」の調査から浮かび上がった課題を踏まえ、学校として、次ページのような取組の充実を図っていきます。

○課題を踏まえた日常の授業改善に取り組みます。

- ・国語では、日常の授業において音読や黙読を積極的に行い、文章を速く、正確に読む力の向上を図ります。
- ・算数では、問題の場面を図にして考える活動を意図的に設定し思考力の向上を図るとともに、繰り返しの学習で、基礎・基本の着実な定着を図ります。
- ・理科では、問題把握→予想・仮説→観察・実験→結果→考察→結論の学びのプロセスを大切にしながら授業を展開します。
- ・調べ学習や学習内容のまとめ、子どもたちの意見交流、学習の振り返りなどさまざまな学習活動でタブレット端末を活用し、児童一人一人が自分の考えをまとめる活動を行っていきます。
- ・朝学習や補充学習を中心としたeライブラリアドバンスの活用や、長期休業中や学級閉鎖時のタブレット持ち帰りなどでもタブレット端末を活用し、子ども一人一人の学習意欲や進度に沿った学習を行っていきます。



タブレットを使った学習

○生活習慣・学習習慣・読書習慣の確立を図る取組の充実を図ります。

- ・学校だよりや保健だより等で、生活習慣の改善に向けた啓発を続けます。
- ・からだスマイルチャレンジの取組を通して、家庭での生活習慣を見直す機会とします。
- ・各学年の家庭学習の目標や取組内容について、教職員で改めて確認し、系統性のある指導を行っていきます。
- ・家庭学習強化週間の取組を穂別中学校と連携して行い、家庭学習の質・量（学年×10分+10分）の定着を図ります。
- ・穂別図書館やひまわりの会と連携して、本に親しむ機会を増やします。
- ・読書をする機会を意図的に設け、学校及び家庭での読書習慣の確立に努めます。



朝の読み聞かせ



全国学力・学習状況調査の結果は、あくまで学力や学習状況、生活状況の一面をとらえたものです。しかしながら、調査結果から明らかとなった現状・課題を真摯に受け止め、「6年生の学力」ではなく「穂別小学校の学力」として捉え、穂別の子どもたちのために、学校として改善できることを継続して行っていきます。

学年の総まとめとなる3学期が始まりました。ご家庭でも、**家庭での読書習慣の確立や、ゲームやスマートフォン等の使い方に関するルール作りやその徹底**など、児童の生活習慣を改善できるよう、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。